T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	知識共有を促進するためのインセンティブ使用法の理論化：新興スタートアップの場合
Title(English)	Theorizing Incentive Usage to Encourage Knowledge Sharing – Case of Young Startups
著者(和文)	LaitinenJouniAnter
Author(English)	Jouni Laitinen
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11322号, 授与年月日:2019年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:妹尾 大,飯島 淳一,井上 光太郎,鈴木 定省,福田 恵美子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11322号, Conferred date:2019/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（博士課程）

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第　　号		学位申請者氏名	Jouni A. Laitinen	
論文審査 審 査 員		氏　名	職　名	氏　名	職　名
	主査	妹尾 大	教授	福田 恵美子	准教授
	審査員	飯島 淳一	教授		
		井上 光太郎	教授		
		鈴木 定省	准教授		

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は「Theorizing Incentive Usage to Encourage Knowledge Sharing - Case of Young Startups」（知識共有を促進するためのインセンティブ使用法の理論化：新興スタートアップの場合）と題し、以下の７章よりなる。

第１章「Introduction」（序論）では、スタートアップ企業における知識共有について述べられており、２つの研究課題にとりくむことが宣言されている。（１）知識共有を促進するためのインセンティブ制度をどうやったら構築できるか、（２）新興スタートアップの知識共有に影響をあたえる要因は何か。

第２章「Literature Review」（文献レビュー）では、知識と知識共有についての先行研究、動機づけについての先行研究、およびスタートアップを対象にした先行研究をレビューして、本論文の対象範囲と鍵概念を明確にしている。

第３章「Incentives, Motivation and Knowledge Sharing」（インセンティブ、動機づけ、および知識共有）では、インセンティブに対する旧来のアプローチを検討し、新たなフレームワークを提案している。そして、過去に報告されているインセンティブ制度の事例を再分析している。

第４章「Knowledge Sharing Motivation in Startups」（スタートアップにおける知識共有の動機づけ）では、香港と日本で 10 人の設立者へのインタビュー調査を実施している。その分析結果から、（１）スタートアップのビジョン（２）活動に対する基本的な動機づけ、の２点が知識共有にとって重要であることを発見している。

第５章「Influence of Organizational Culture and Vision for the Company on Knowledge Sharing Motivation」（組織文化と会社のビジョンが知識共有の動機づけに与える影響）では、先行研究と第４章の研究結果を組み合わせた上で、知識共有の動機づけについての仮説的フレームワークを構築し、111 社のデータを収集・分析して仮説を検証している。検証の結果、組織文化と会社のビジョンは知識共有の動機づけに影響を与えているが、知識共有の動機づけのうち外発的な動機づけについては知識共有の意図に影響を与えていないことを発見している。ここから、知識共有を促進するためのインセンティブ制度を設計する際には、外発的な動機づけではない方法を利用するべきだと提案している。

第６章「Combining the Two Frameworks」（二つの枠組みの結合）では、第３章、第４章、第５章の研究結果を組み合わせて、新興スタートアップでの知識共有を促進するインセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークを設計している。さらに、そのインセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークの利用方法を例示することで、特定の文脈でいかに知識共有のインセンティブ制度を設計するかについて考察している。

第７章「Conclusions and Future Research」（結論と将来研究の展望）では、研究課題への解答の形で結論がまとめられている。第１の研究課題である、知識共有を促進するためのインセンティブ制度をどうやったら構築できるか、に対しては、インセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークが解答となっている。インセンティブ制度の設計者は、実際のインセンティブに関する要素だけでなく、個人レベルの要素に加えて、短期的行動と長期的行動の両方にシステムがどのように適合するかについても考慮する必要があることが強調されている。第２の研究課題である、新興スタートアップの知識共有に影響をあたえる要因は何か、に対しては、実証研究によって更新された知識共有の意図に影響する因果モデル的フレームワークが解答となっている。ここでは会社のビジョンと共同体で共有しあう組織文化が、援助行動の楽しみや相互利益の規範といった内発的動機づけを通じて、知識共有の意図を高めるというモデル上の経路が示されている。本論文の限界と将来研究の展望についてもこの章で述べられている。

以上、これを要するに本論文は、新興スタートアップ企業において知識共有を促進するためのインセンティブ使用法を、理論的考察と実証分析の双方によって理論化したものであり、従来のインセンティブ研究およびスタートアップ経営研究で明らかにされていなかった知見を導出しており学術的な貢献が大である。イノベーションを効率的に創出するために重要となる知識共有活動は個人の自発的活動であるため、マネジメントによる直接的介入が困難でありインセンティブ制度の設計を通じた間接的介入が必要となる。理論を具体的なインセンティブ制度の設計の提案につなげている本論文は、実務的な貢献も大きく、経営工学分野の研究成果として高く評価できる。よって本論文は、博士（学術）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ（T2R2）にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。